

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業（がん政策研究事業））
分担研究報告書

小児がん経験者に対する長期的支援の在り方に関する研究

研究分担者 藤本純一郎 国立成育医療研究センター小児がん疫学・臨床研究センター

[研究要旨] 小児がん経験者に対する長期的支援の在り方に関する実態調査の一環として、教育環境を重点的に研究した。院内の教育環境に関しては、IT 活用事業を含め、ある程度充実していると考えられた。また、ひとつの施設では自治体への交渉により平成 27 年度から特別支援学校の分校化が実現した。一方で、高校教育の充実、教員数不足や学習室の不足等、今後整備が必要であると考えられた。

A．研究目的

平成 24 年 2 月に小児がん拠点病院(以下「拠点病院」とする)が全国に 15 施設指定されたが、小児がん医療の実態と理想の間には、依然として乖離がある。今回、小児がん経験者に対する長期的支援の在り方に関する研究の一環として病院内教育環境の実態を明らかにすることを目的とした。

B．研究方法

研究班に参加する小児がん拠点病院 15 施設に対し以下の統一した項目【表 1】で病院内の教育環境の実態調査を行った。

表 1．院内学級に係る調査項目

番号	内容
1	院内学級・学校等の名称
2	特別支援学校本校・分校・分教室・訪問の区別
3	ベッドサイド授業の有無
4	高校教育の有無
5	IT 活用事業の有無と活用事例
6	その他特記すべき事項

教育環境の実態把握の資料とするとともに改善すべき課題を浮き彫りにすることとした。

C．研究結果

1．院内学級・学校等の名称

巻末の表 2 を参照のこと。

2．特別支援学校本校・分校・分教室・訪問の区別

表 3 に調査結果をまとめた。特別支援学校による教育支援は 11 施設、公立小中学校による特別支援教室が 4 施設であった。なお、北海道大学は現在、公立小中学校の特別支援教室であるが、小児がん拠点病院として選定されたことをきっかけに札幌市教育委員会に交渉し、平成 27 年度から特別支援学校の分校になることが決定したとの報告があった。

表 3．院内学級・学校の区分

特別支援学校の本校：	2
特別支援学校の分校：	0
特別支援学校の分教室：	8
特別支援学校の訪問：	1
公立小中学校の特別支援教室：	4

調査内容は集計し、小児がん拠点病院における

3．ベッドサイド授業の有無

表2に示したが13施設で何らかの形でベッドサイド授業が行われていた。

4．高校教育の有無

表4に実態をまとめた。高校教育は4施設でのみ実施されていた。各施設からの分担報告書を参照するとわかるが、高校教育が行われているところでもその内容は十分ではなかった。高校教育が行われていない施設のうち2施設では同施設が所属する大学の学生がボランティアで学習支援を行っている事例も紹介された。なお、公立小中学校の特別支援教室ではそもそも高校教育は対象外であるため制度的に不可能である。しかしながらそのような場合でも中学教員がサービスとして学習支援が行われている事例が報告された。また、中学生で入院し高校進学してもなお病院生活を送っている患者で、中学教員が引き続き高校教育支援を実施している事例も報告があった。

表4．高校教育の実態

高校教育
あり： 4（本校1、分教室2、訪問1）
なし： 11（本校1、分教室6、 特別支援教室4）

5．IT活用事業の有無と活用事例

表2で分かるように11施設から何らかの形でIT活用が報告されている。タブレット型端末を用いたベッドサイド授業のみならず、ネットワークを活用した事例としては、テレビ会議システムを用いた他施設の院内教室との交流、クリーンルームと院内学級との連携、病棟のプレイルームと院内学校体育館とを結んだ体育祭への参加等があった。

6．その他特記すべき事項

表2に一部が記載されているが、今回の各施設からの分担報告書では様々な取り組みが紹介

されている。

たとえば、退院前に、患者および家族、院内学級教員、前籍校教員、医療関係者等が参加して復学をスムーズにする試み、入院時にも同様の取り組みを行うこと、入院中から医療関係者と教員が話し合う場の定期開催、AYA世代専用居室の設置、自治体への啓発講演会の実施と公立高校生入院患者への訪問学習制度の開始、等先進的な取り組みが行われていることが明らかになった。

D．考察

今年度、小児がん拠点病院15施設における教育環境について調査し、実態の一部が明らかになった。

まず、教員数が十分配置されていないにもかかわらず現場の努力で教育支援を推進しているという姿勢が明確になった。特に、関係者が参加して情報共有や復学支援等が予想以上に実施されていることがわかった。また、ひとつの施設ではAYA世代用の居室を設けるなど配慮が進んでいることが判明した。

公立小中学校による特別支援教室よりも特別支援学校による教育支援のほうが人員、内容等多くの面で優れていることは教育専門家から常に指摘されていることである。また、少なくとも小児がん拠点病院レベルなら特別支援学校の分校を目指すべきとも指摘されている。そのような背景のもと、ひとつの施設で自治体教育委員会への交渉の末、来年度から特別支援学校の分校化が決まったという報告は大変勇気づけるものであった。

今回の調査で課題も多く抽出できた。保険医療制度の中で抗がん剤治療を入院から外来へとシフトさせることが求められるようになってきている。過程で治療に専念できることのメリットは大変大きいですが、感染や体力等の問題で学校

に通うことが難しいこと、外来、入院を繰り返すスケジュールが分かっているため、そのたびに学籍を異動させることは大変労力を要すること等課題が山積している。

高校教育については予想通り十分に対応できていないことが判明した。高校教員が何らかの形で関わっている施設は4施設のみであった。その他の施設のうち2施設では大学生がボランティアで支援を依頼しているところがあった。

その他の課題として意見が多かったのは、教員数の絶対的不足ならびに教育スペース確保の困難さであった。特別支援学校の分校レベルに格上げされれば多くの課題は解消できると考えられるが、スペースの問題や5月の生徒数で教員数が決まるという制度等解決できないものも多い。

来年度に向けては、今回の調査で浮き彫りになった課題をより詳細に調査すること、各施設で独自に実施している取り組みをより詳細に調査し情報共有することにより、小児がん拠点病院全体の教育支援体制の底上げを図る必要がある。

E．結論

小児がん拠点病院15病院における院内学級の教育環境について実態調査を行った。ベッドサイド授業やIT活用の活発化、関係者による情報共有と復学支援、自治体への交渉による特別支援学校の分校への格上げ等進んだ取り組みも見られたが、高校教育体制の未整備、教員数やスペースの不足など課題も多く浮かび上がった。以上より今後の研究の方向性が明らかになった。

F．健康危険情報

なし

G．学会発表・論文発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

表2. 院内教育環境の実態まとめ

番号	施設名	特別支援学校 (病弱)				院内学級・学校名	本校名	ベッド サイト学習	高校 教育	IT活用	IT活用 具体例	備考
		本校	分教室	訪問	分教室 (病弱以外)							
1	北海道大学				北海道大学病院 院内学級	札幌市立 幌北小学校 札幌市立 北底中学校	無	無	有	テレビ会議システムを使った中継授業(サウジアラビア 中国 動物園、北大構内、阪大院内学級等)	札幌市教委への要望が通り来年度から分校になる	
2	東北大学				東北大学病院 分教室	仙台市立 本町通小学校 仙台市立 第二中学校	有	無	有	具体的に: クリーンルームと教室間のインターネットワーク画像による授業		
3	埼玉県立小児医療センター				岩槻特別支援学校	岩槻特別支援学校	有	無	有	病棟のプレイルームと体育館を映像で結んで、体育祭を行うなど		
4	国立成育医療研究センター				都立光明特別支援学校 よかぜ分教室	東京都立 光明特別支援学校	有	有	有	タブレット端末によるベッドサイト学習		
5	東京都立小児総合医療センター				わかば教室	東京都立 武蔵台学園	有	無	有	リードで研究のまとめを記載させ発表させたり、パワーポイントを使って発表原稿を作る。タブレットでの学習の際、社会や理科のCDの教材を使用して学習させる。		
6	神奈川県立こども医療センター				神奈川県立 横浜南養護学校	神奈川県立 横浜南養護学校	有	有(*)	有	他の教室の生徒とインターネット回線を通じた合同授業	*: 神奈川県立高校生に対する教育支援	
7	名古屋大学				愛知県立 大府養護特別支援学校 施設内教育支援学校	愛知県立 大府養護特別支援学校	無	無	無			
8	三重大学				緑が丘 特別支援学校 訪問教育部	緑が丘 特別支援学校	有	無	有	PCを使用した授業		
9	京都大学				京都市立 桃陽総合支援学校 京大病院分教室	京都市立 桃陽総合支援学校	有	無(*)	有		*: 但し、週1回、桃陽総合支援学校の協力で自習を補助して下さる教員の派遣あり	
10	京都府立医科大学				京都市立 桃陽総合支援学校 府立医大病院分教室	京都市立 桃陽総合支援学校	有	無	有	タブレットを活用したベッドサイト学習、テレビ会議システムを用いた教室間連携同時授業		
11	大阪府立母子保健総合医療センター				大阪府立 羽曳野支援学校 母子保健総合医療センター分教室	大阪府立 羽曳野支援学校	有	無(*)	有	インターネット接続はせず、タブレット端末による動画やアプリなどを利用した授業がある	*: 長期入院生徒学習支援事業による相談に応じている	
12	大阪市立総合医療センター				大阪市立 総合医療センター分教室	大阪市立 光陽特別支援学校	有	有	有	実験授業の中継、i-padを使った授業		
13	兵庫県立こども病院				わらび学級	神戸市立 友生支援学校	有	有(*)	無		*: 重度の心身障児のみが対象	
14	広島大学				比治山小学校 院内学級、 段原中学校 院内学級	広島市立 比治山小学校 広島市立 段原中学校	有	無(*)	無		*: 正式な形にはなっていませんが、必要に応じて広島市と個別交渉は可能	
15	九州大学				小学部(通称: がんばーむ)、 中学部	福岡市立 千代小学校 福岡市立 千代中学校	有	無	有	小学部でパソコンを使用した授業を行っている		